

1. 第6次総合計画策定のための町民向けアンケート調査概要

①調査目的

人口減少など大きく変化している社会状況の中、町では今後の秩父別町のまちづくりの指針となる「第6次総合計画」の策定に取り組んでおり、必要な取組みをいかに計画的に推進していくかを、町民とともに考えていくことがとくに重要と考えている。

このため、町民の町政について、様々な意見や考え方を十分に把握し、今後の秩父別町のまちづくりの基礎資料として本調査を実施した。

②調査対象者と回収結果

調査対象者	配付数	回収数	回収率
18歳以上の町民	500	280	56.0%

③調査期間と調査方法

平成27年3月を調査期間とし、郵送により配布・回収した。

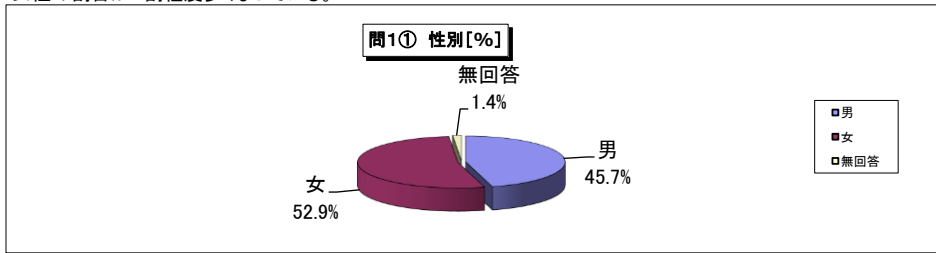
④備考

各調査票の設問に対して、性別・年齢等での修計を行い、全体的考察につづき、側面的な傾向を記述している。全体的な傾向は、グラフで示しているが、無限小数を四捨五入して処理しており、グラフの合計が100%にならない箇所及び選択肢を省略して表示している箇所がある。

1. 回答者の状況

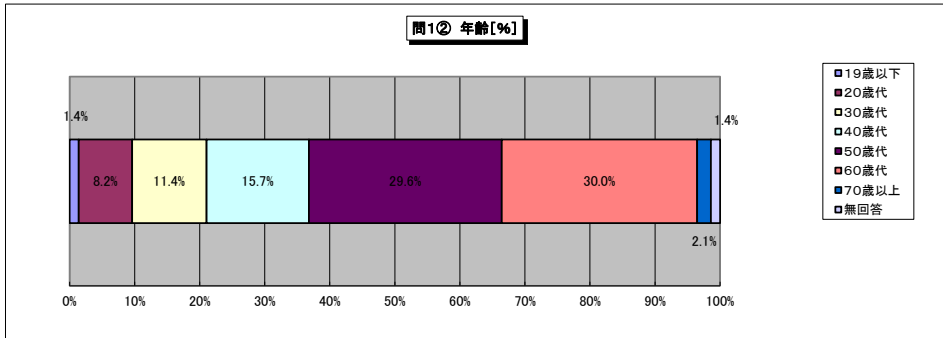
①性別

女性の割合が1割程度多くなっている。



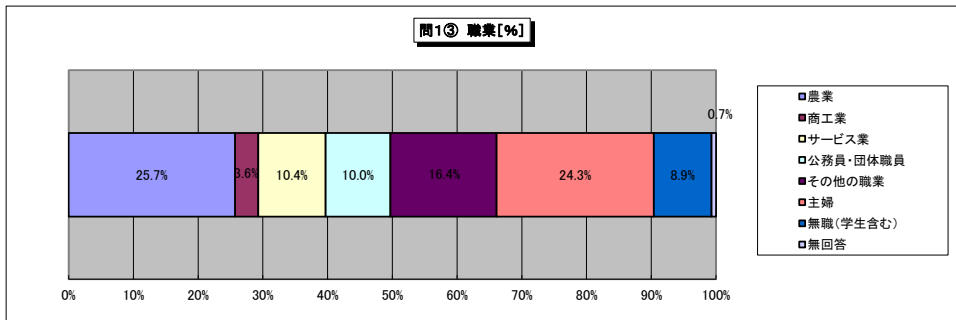
②年齢

50歳、60歳の割合が同程度であり、50歳以上が6割以上をしめている。



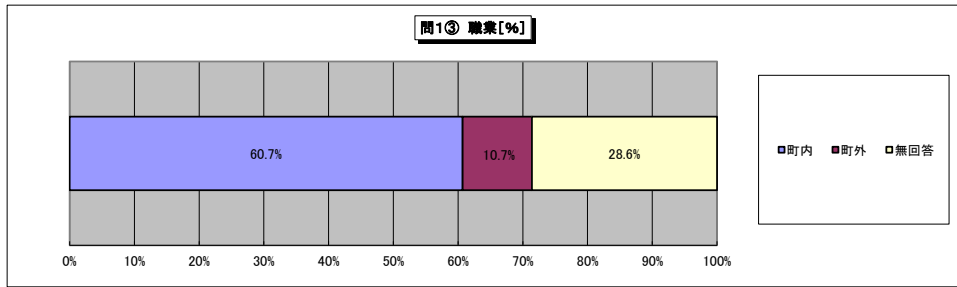
③職業

基幹産業の農業と主婦が、それぞれ3割弱と同程度を占め、公務員・団体職員が、それぞれ1割を超えている。



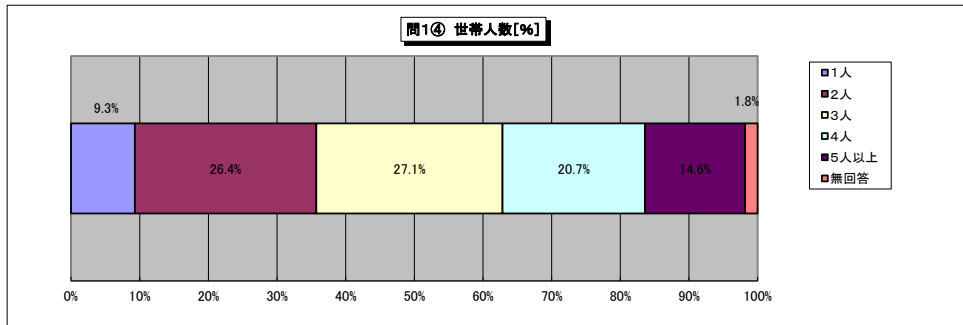
④職場

町内が6割、町外が1割、無回答が3割となっている。



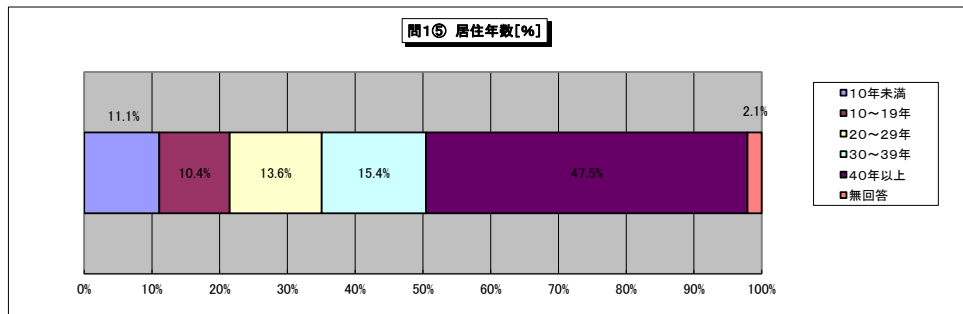
⑤世帯の人数

3人世帯が最も多く、2人世帯も同程度の割合である。



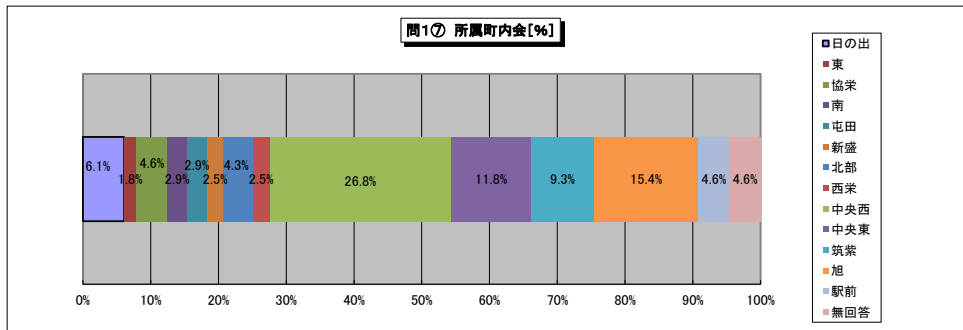
⑥居住年数

40年以上居住している回答者が5割近い。



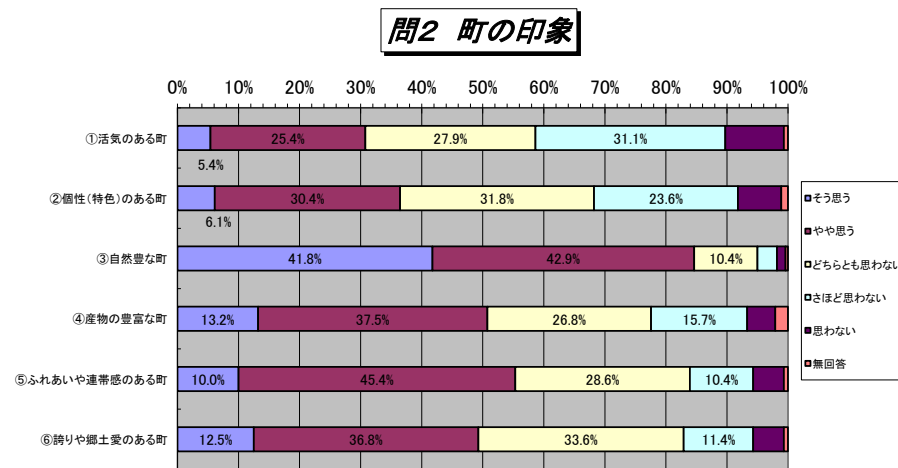
⑦所属町内会

中央西町内会が最も多く3割弱。中央西、中央東と旭町内会の3町内会の合計で5割を超えている。



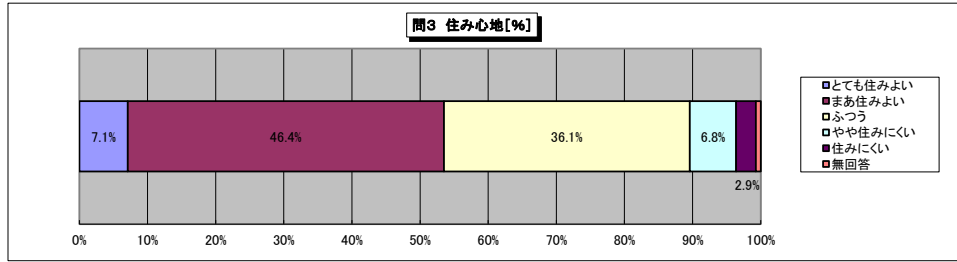
問2. 町のイメージについて

「自然の豊かな町」について、「そう思う」「やや思う」との回答者が、7割を超えて特に多くなっている。一方で、「ふれあいや連帯感のある町」や「産物の豊かな町」といった回答が多く見られる。「活気のある町」について、「そう思う」「やや思う」との回答者は、3割程度だった。



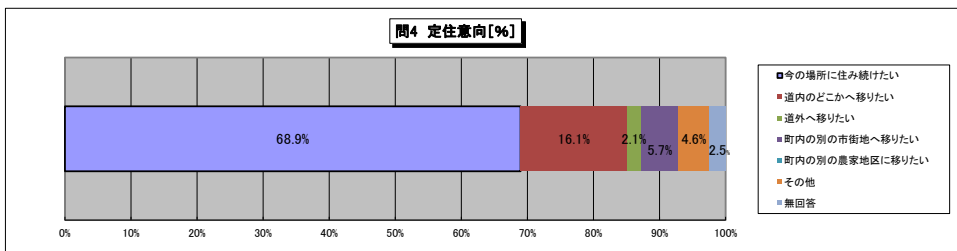
問3. 住み心地

「まあ住みよい」が4割を超え最も多く、「とても住みよい、まあ住みよい」と感じている回答者は5割を越えている。



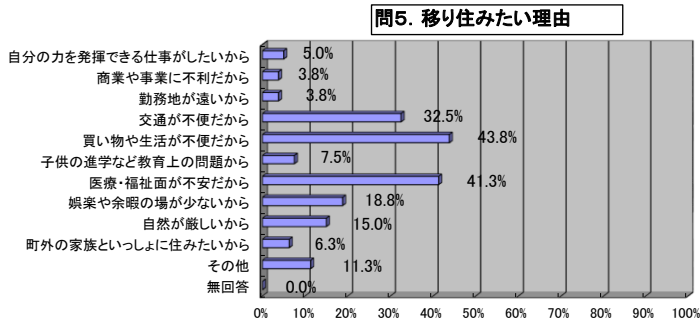
問4. 居住意向

前問の住み心地に関する回答と関連し、「今の場所に住み続けたい」という回答が7割近い一方で、町外へ移住意向のある回答者が2割弱程度となっている。



問5. 移り住みたい理由

問4のうち「買い物や生活が不便だから」と「医療・福祉面が不安だから」が最も多く、4割を超えている。次いで多いのが「交通が不便だから」で3割を超えている。

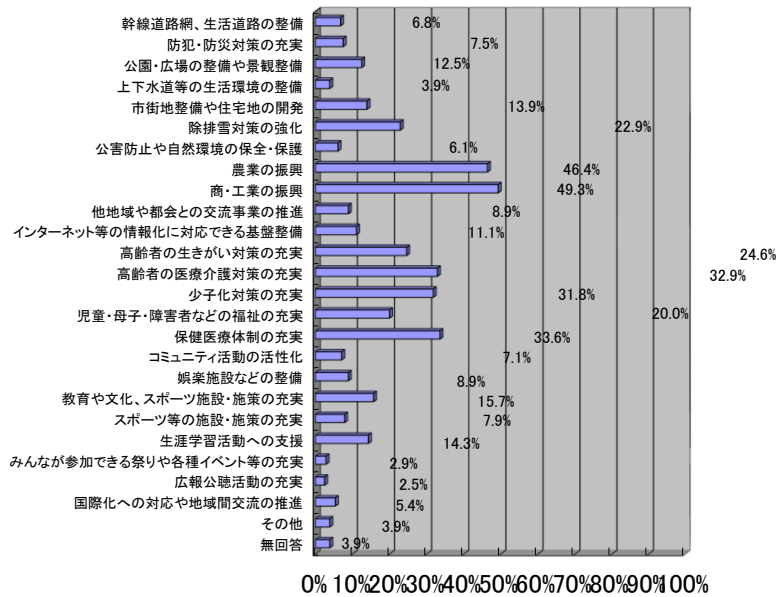


住みよいまちづくり

問6. 力を入れるべき分野

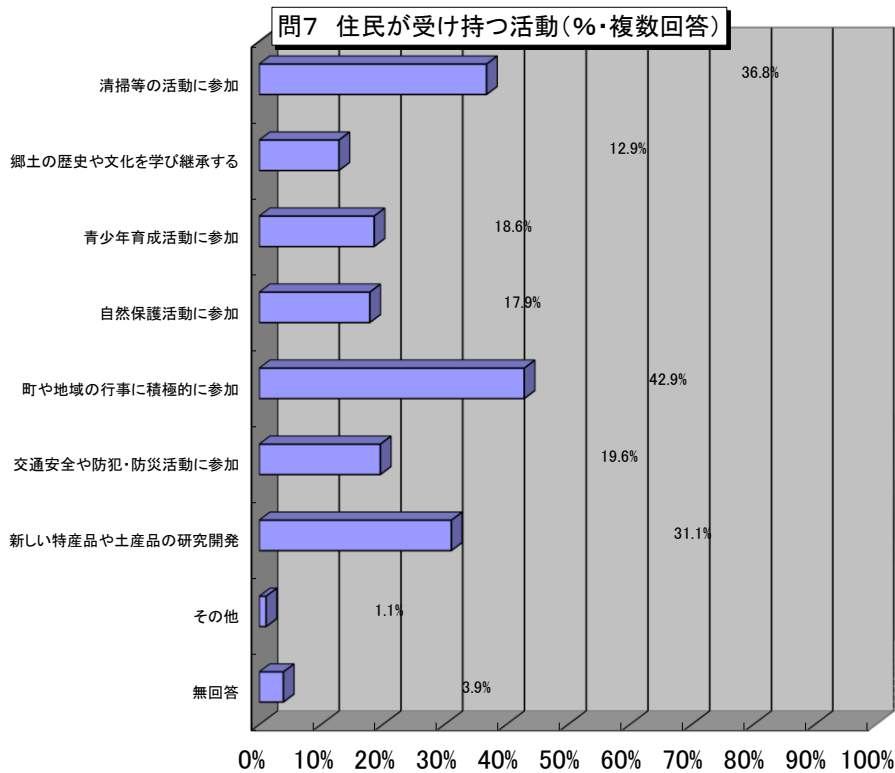
「農業の振興」、「商・工業の振興」がいずれもほぼ5割弱で最も多く、ついで「高齢者の医療介護対策の充実」、「少子化対策の充実」、「保健医療体制の充実」がそれぞれ3割強を超えている。

問6 力を入れるべき分野(%・複数回答)



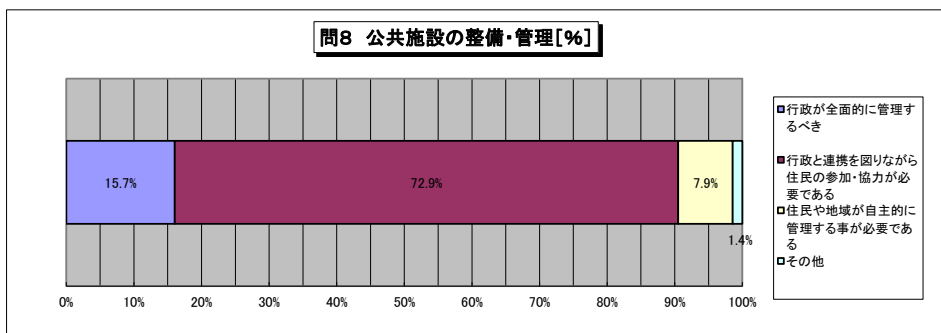
問7. 住民一人ひとりが受け持つ活動

もっとも多いのは「町や地域の行事に積極的に参加」で4割を超えており、以下、「清掃等の活動に参加」「新しい特産品や土産品の研究開発」と続く。



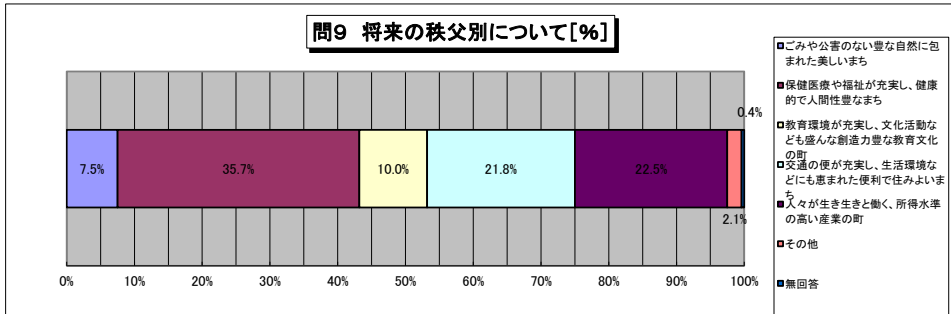
問8. 公共施設の整備・管理について

「行政と連携を図りながら住民の参加・協力が必要である」が最も多く7割を超えている。「行政が全面的に管理すべき」が15.7%に対し、「住民や地域が自主的に管理する事が必要である」が7.9%と倍近くになっている。



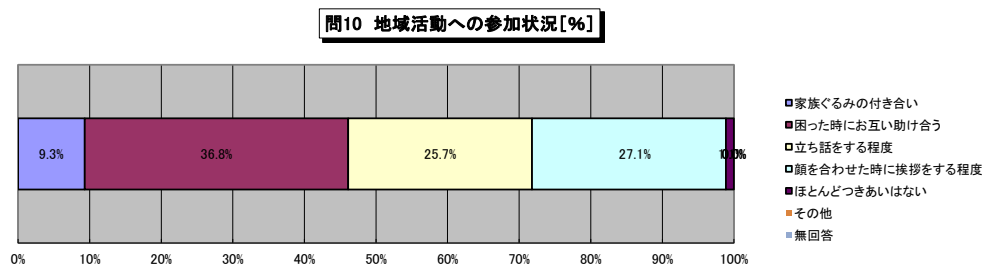
問9. 将来の秩父別について

もっとも多いのが「保健医療や福祉が充実し、健康的で人間性豊かなまち」で3割を超え、ついで「交通の便が充実し、生活環境などにも恵まれた便利で住みよいまち」「人々が生き生きと働く、所得水準の高い産業の町」でどちらも2割程度となっている。



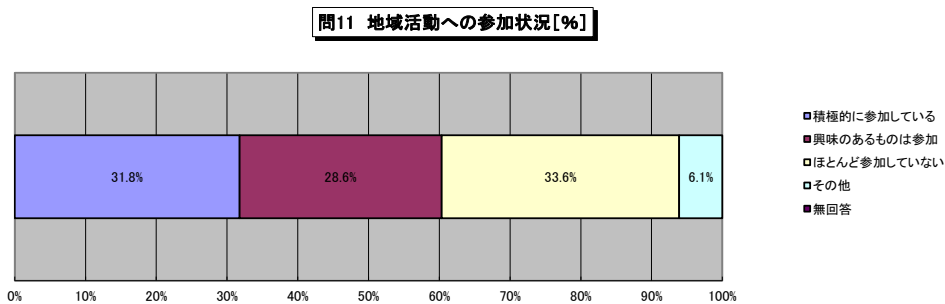
問10. 近所づきあいの状況

「困った時にお互い助け合う」が4割弱と最も多く、ついで「立ち話をする程度」「顔を合わせたときに挨拶をする程度」がいずれも3割弱となっている。



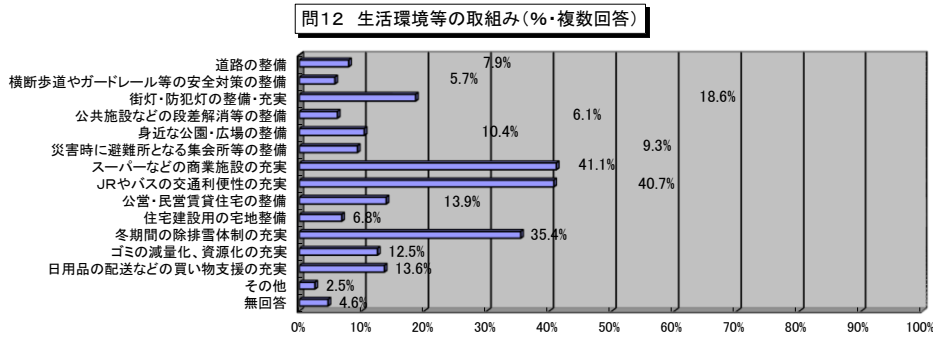
問11. 地域活動への参加状況

「積極的に参加している」と「ほとんど参加していない」「興味のあるものは参加」がほぼ同程度でいずれも3割程度である。もっとも多いのは「ほとんど参加していない」となっている。



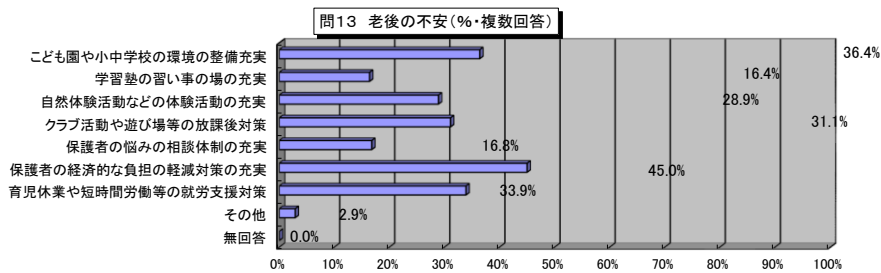
問12. 生活環境について行政に望むこと

「スーパーなどの商業施設の充実」「JRやバスの交通利便性の充実」が4割を超えもっとも多い。次いで「冬期間の除排雪体制の充実」で3割強となっている。



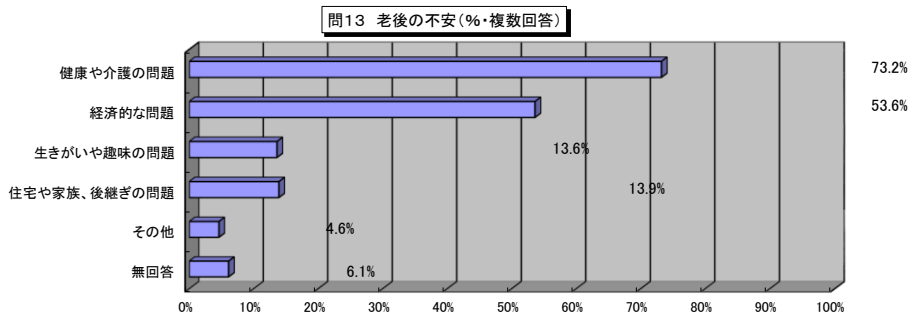
問13. 子育て対策として重要だと思うこと

もっとも多いのが「保護者の経済的な負担の軽減対策の充実」で5割弱。ついで「こども園や小中学校の環境の整備充実」で4割弱、「クラブ活動や遊び場等の放課後対策」の3割強となっている。



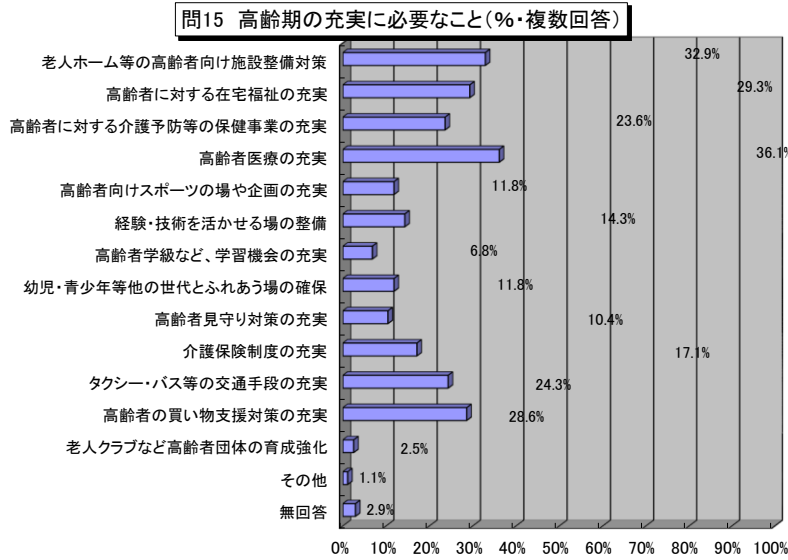
問14. 老後の不安について

「健康や介護の問題」が最も多く、8割近い。次いで「経済的な問題」が6割程度となっている。



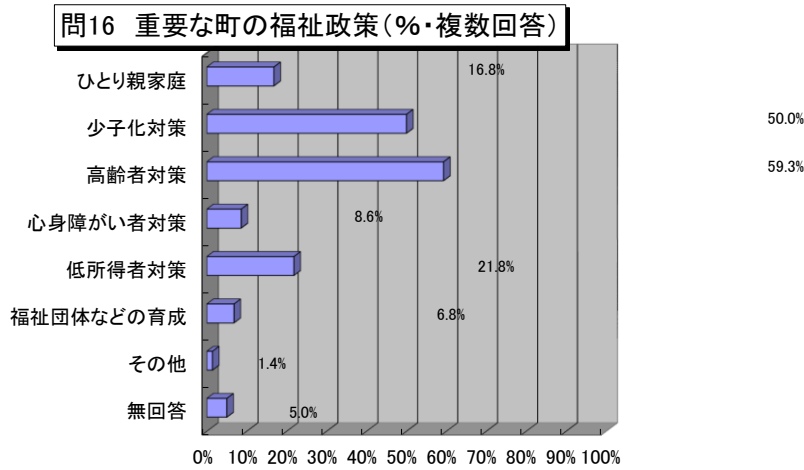
問15. 高齢期の充実に必要なこと

「高齢者医療の充実」が最も多く4割弱。次いで「老人ホーム等の高齢者向け施設整備対策」が3割強、「高齢者に対する在宅福祉の充実」が3割である。



問16. 重要な町の福祉対策

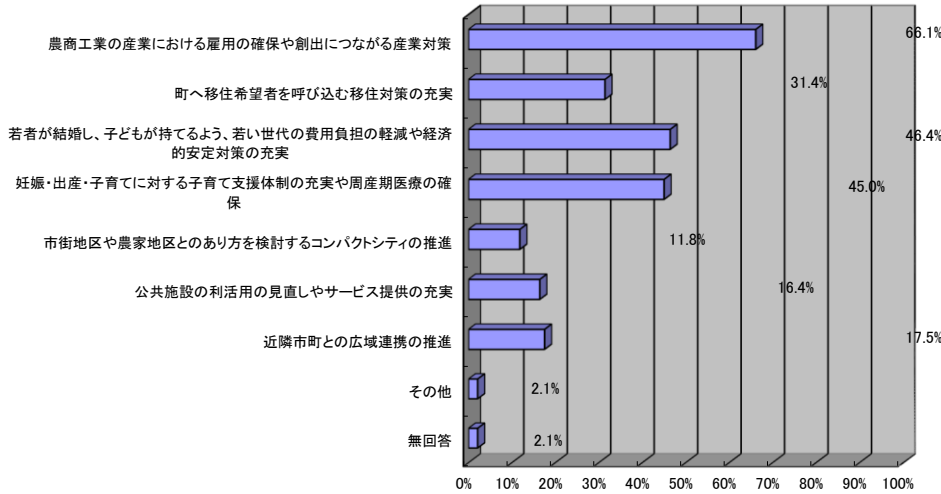
高齢者対策、少子化対策が多く、それぞれ約6割、5割となっている。



問17. 人口減少問題対策

「農商工業の産業における雇用の確保や創出につながる産業対策」が最も多く6割を超えている。ついで「若者が結婚し、子どもが持てるよう、若い世代の費用負担の軽減や経済的安定対策の充実」「妊娠・出産・子育てに対する子育て支援体制の充実や周産期医療の確保」でいずれも4割強となっている。

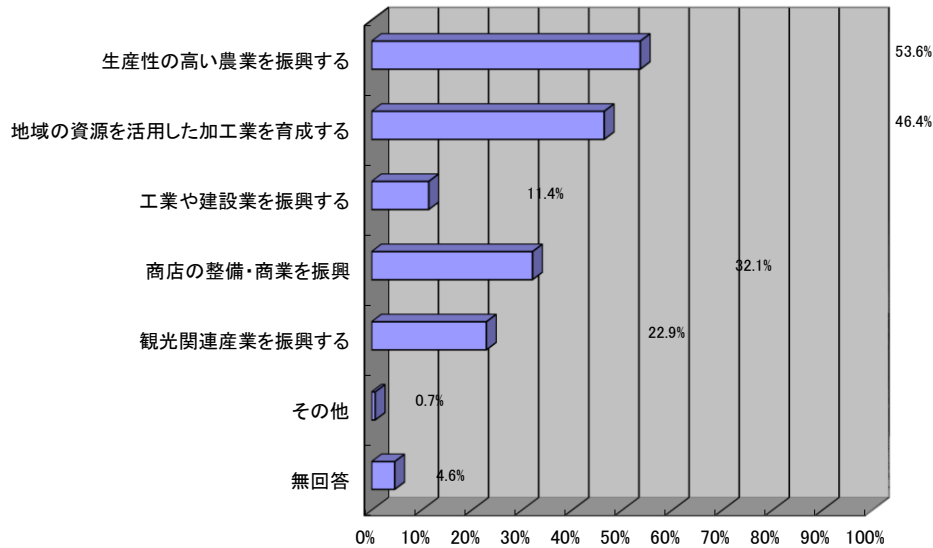
問17 人口減少問題対策(%・複数回答)



問18. 産業振興対策

「生産性の高い農業を振興する」が5割を超え最も多く、ついで、「地域の資源を活用した加工業を育成する」が4割を超えている。

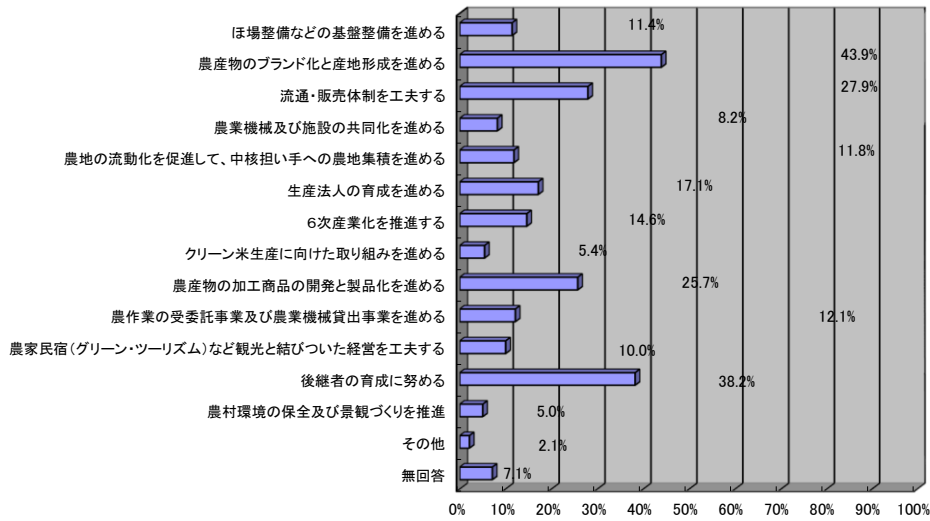
問18 既存産業の振興(%・複数回答)



問19. 農業の活性化

「農産物のブランド化と産地形成を進める」がもっとも多く、4割強。次いで「後継者の育成に努める」が4割弱、「流通・販売体制を工夫する」が3割弱となっている。

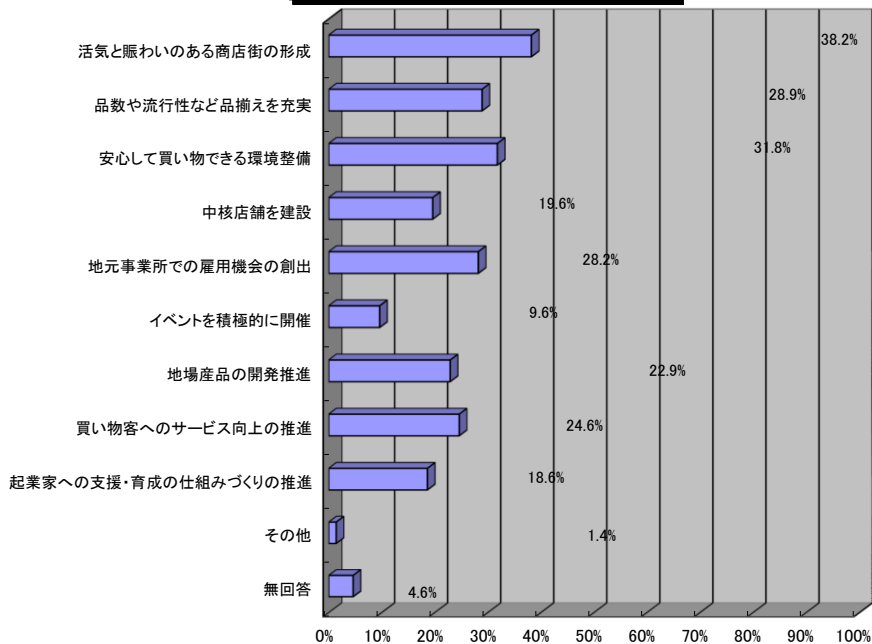
問19 農業の活性化(%・複数回答)



問20. 商工業の活性化

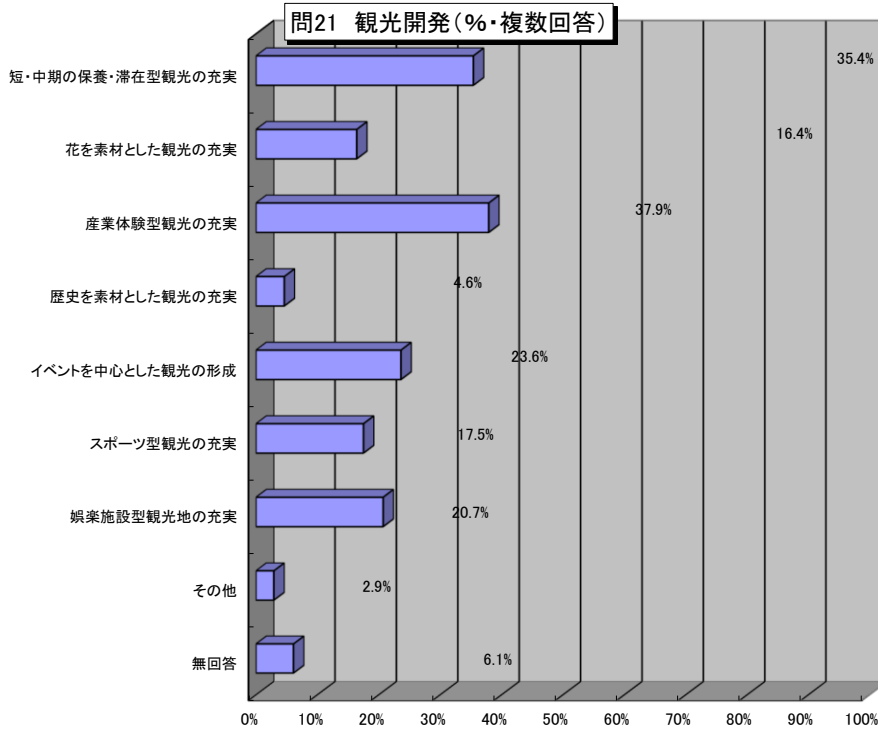
「活気と賑わいのある商店街の形成」が4割弱と最も多く、次いで「安心して買い物できる環境を整える」、「品数や流通性などの品揃えを充実する」、「地元事業所での雇用機会の創出」でいずれも3割前後となっている。

問20 商工業(商店)(%・複数回答)



問21. 観光振興

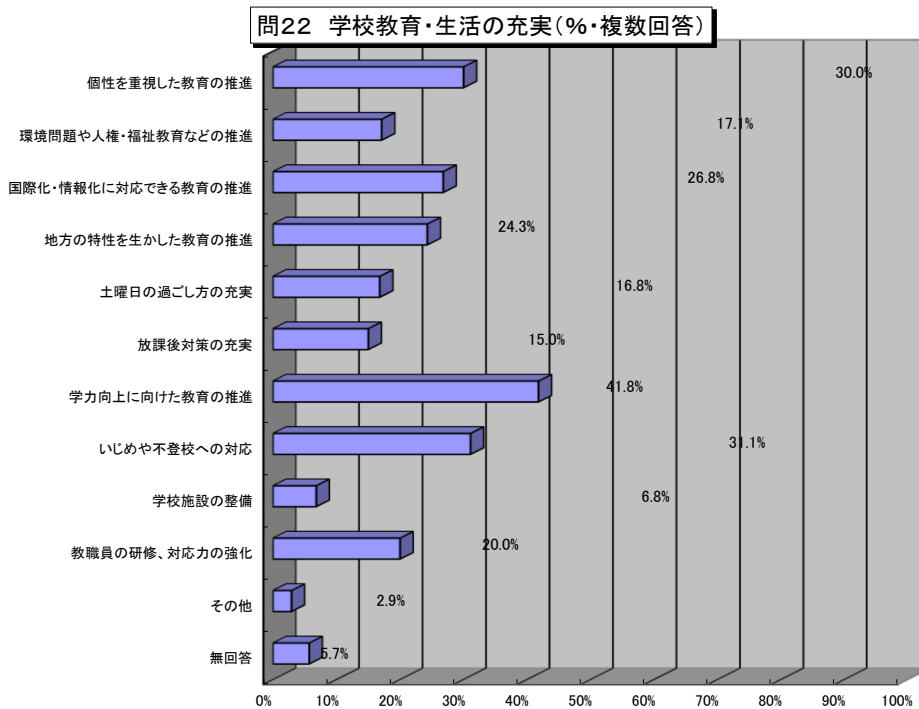
「産業体験型観光の充実」が最も多く4割弱。ついで「短・中期の保養・滞在型観光の充実」で3割強となっている。



(4) 学校教育・生涯学習・スポーツ・文化活動

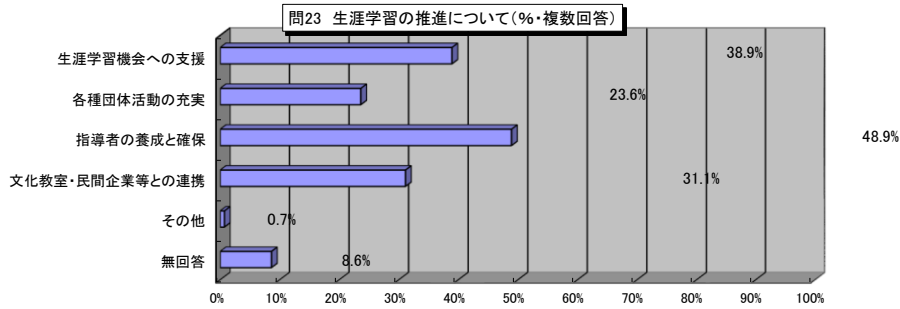
問22. 学校教育の充実

「学力向上に向けた教育の推進」が4割を超えて最も多く、次いで「いじめや不登校への対応」「個性を重視した教育の推進」が3割と多かった。



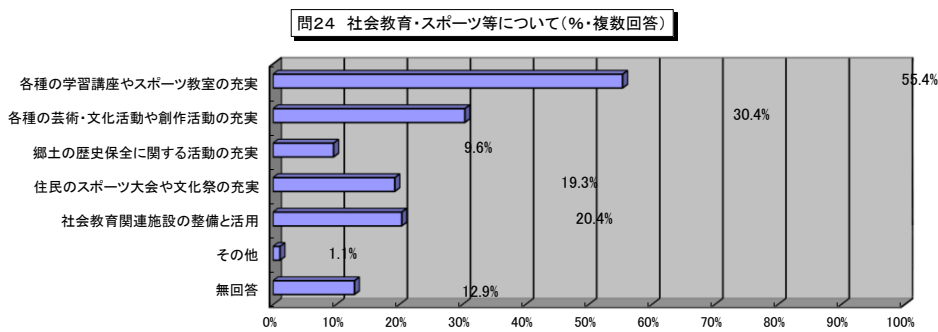
問23. 生涯学習の推進について

「指導者の養成と確保」が最も多く5割近い。次いで「生涯学習機会への支援」が4割弱、「文化教室・民間企業等との連携」が3割強となっている。



問24. 社会教育・スポーツ等の振興

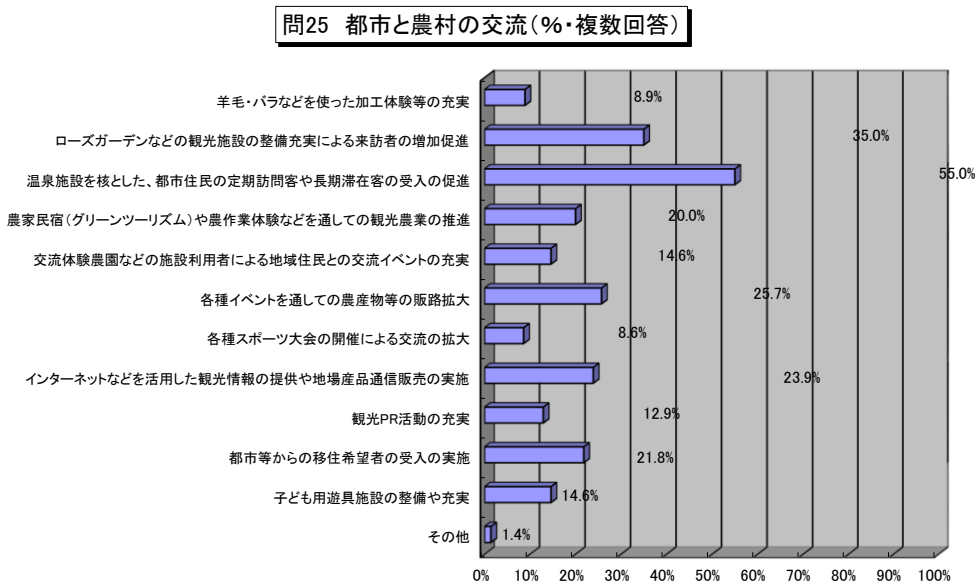
「各種の学習講座やスポーツ教室の充実」が5割を超えて最も多く、次いで「各種の芸術・文化活動や創作活動の充実」が3割と比較的多くなっている。



(5) 都市と農村の交流について

問25. 都市と農村の交流

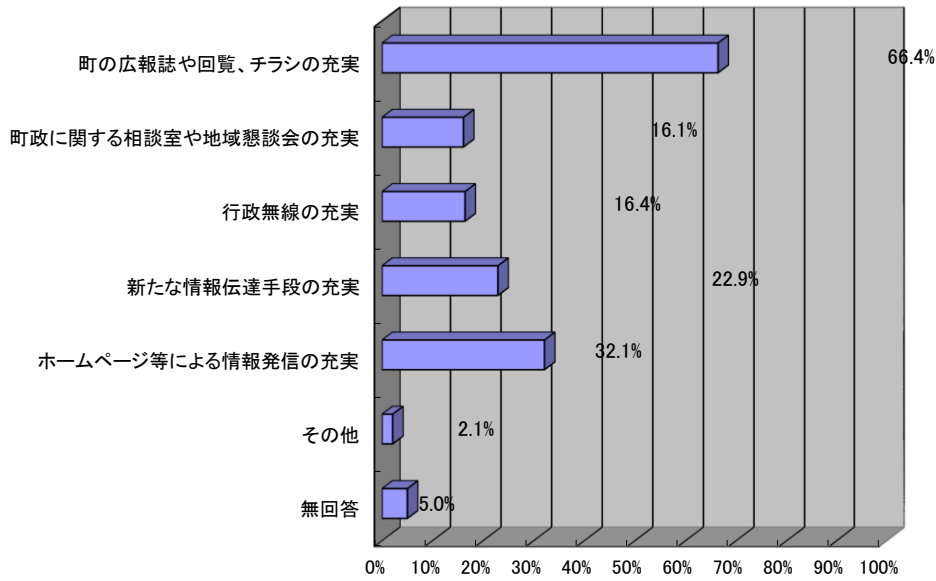
「温泉施設を核とした、都市住民の定期訪問客や長期滞在客の受入の促進」が5割を超え最も多くなっており、次いで、「ローズガーデンなどの観光施設の整備充実による来訪者の増加促進」が3割を超え比較的多くなっている。



8. 住民の参画について
問26. 行政情報の伝達手段

「町の広報誌や回覧、チラシの充実」が6割を超え最も多く、「ホームページ等による情報発信の充実」が3割を超え、比較的多くなっている。

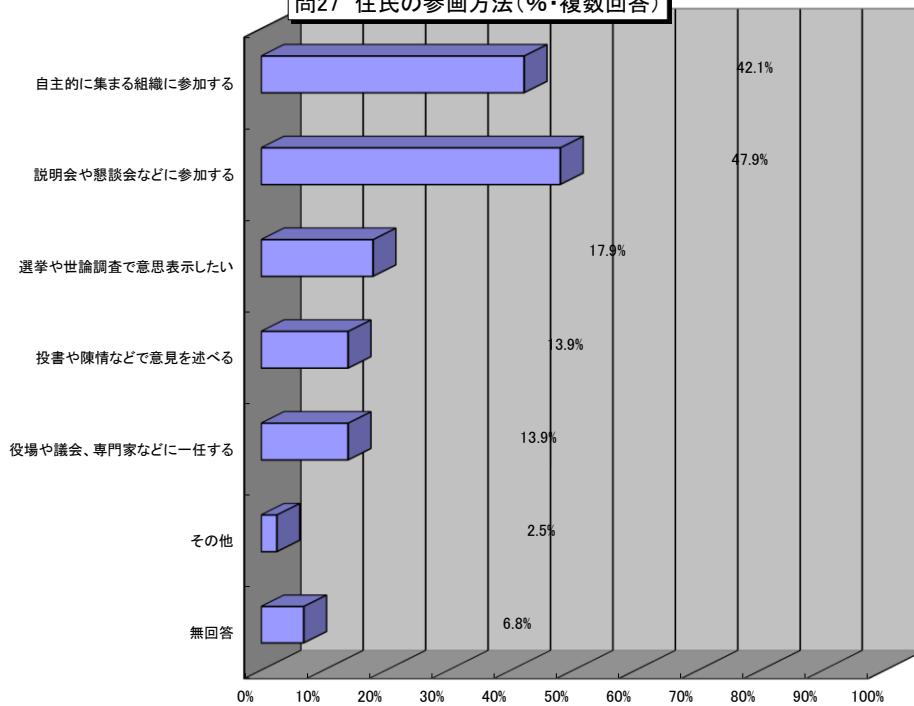
問26 行政情報の伝達手段(%・複数回答)



問27. 住民の参画方法

「説明会や懇談会などに参加する」が最も多く5割弱、ついで「自主的に集まる組織に参加する」が多く4割強となっている。

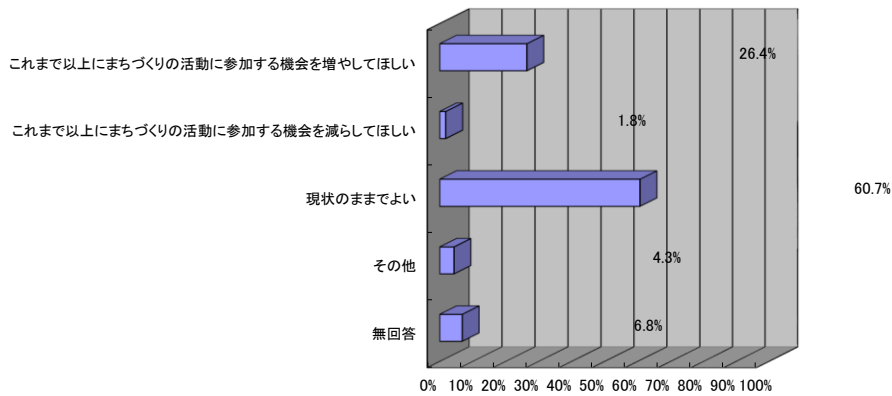
問27 住民の参画方法(%・複数回答)



問28. 住民の参画機会について

「現状のままでよい」が最も多く6割、次いで「これまで以上にまちづくりの活動に参加する機会を増やしてほしい」比較的多い。

問28 住民の参画機会(%・複数回答)



問29. 参画機会の増加希望内容について

問28の内「町のイベントの企画や運営等の協力の機会」が最も多く、5割となっている。次いで多いのが「まちづくりに関する専門家の講演会やワークショップなどの機会」「行政の取組に関する説明会や懇談会の機会」でいずれも4割前後である。

問29 参画機会の増加希望内容(%・複数回答)

